

市内ピーマン生産者と市長との「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	市内ピーマン生産者
日時	平成30年7月24日（火）16:00～18:00まで
場所	鹿屋市役所3階 庁議室
参加者	ピーマン生産者 9名
	市長、農林水産課、各総合支所産業建設課ほか

意見交換

ピーマン経営の現状と課題、そして今後の取り組みについて

- ・ ピーマン経営の現状・悩み・課題について
- ・ 施設園芸でどのようなIoT, ICTに取り組めるか
- ・ 施設園芸に限らず農業振興のアイデアの提案 など

【ピーマン生産者の意見・要望等】

- 課題は、暑さ対策。年々気温が上昇し、従業員の体調管理に気を付けている。
- 台風への心配がある。経験が浅く、ビニールを張るか張らないかで悩む。
 - 一昨年のようなビニールへの補助があれば助かる。
 - ・ 新規就農者は、台風対策としてのネットや寒冷紗の準備ができていない。
 - ・ 輝北は、スプレー菊からの転換のため、元々の花の施設に防風ネットが付いているが、老朽化が進んで折れたり破れたりしている。費用等を考えると修繕を行うか悩みである。
- 雇用が悩みである。人手が足りないとき、どこから集めるか。
 - ・ 1年を通じて仕事があるわけではないので、他に良い仕事が見つければ、来なくなってしまう。
 - ・ 作業は誰にでもできるが、1年間、仕事を教えた人に辞められると、また教えないといけない。
- 2、3月の収穫終盤の価格低迷が悩みである。その時期は、茨城等と比較しても単価が低い。茨城の単価が高い理由は、出始めで品質が良いというものもある。
- 品質は一緒であるが、輝北のピーマン単価が低い。
- 韓国、中国等への市場の広がりがあればと思う。
- 従来よりも防除効果が高く、低温でも活動してくれる天敵の導入を考えている。
 - 薬剤使用が減り、品質も上がり、単価も上がる。導入助成等を検討してもらいたい。
- ピーマン単価がこのまま維持するとしてもコスト面が徐々に高くなっているのが不安がある。
- 降灰事業の補助率、重油への価格補填等への支援、機械や資材を購入する際の事業

活用の選択肢

- ・ 事業を1個人で使いにくいイメージがある。
 - ・ 新しい技術に取り組みたいときの事業をよく知らない。
- スマート農業については、導入コストがかかる。

【市長】

- 台風災害等については、収入保険や災害時の価格補填など一定の所得補償はある。掛け金は必要だが、リスク回避の上でも大切な事だと思う。
- 雇用がないというのは、大きな問題だと思う。かのや農業・農村戦略ビジョンによる農援隊があるが、なかなか農繁期と農閑期がある中で、活用し難い面がある。農援隊の制度を見直して、労働力を流動化させるような仕組みを検討する。
- 作付体系を見直して、品質の良いものを常時出荷できるようにできないか、リスク等はあるが、新しい作型体系を検討する必要があるのではないか。
- 高度化や規模拡大、新規作など積極的に取り組むリスクに対しての支援はあるが要件等もあるため、職員に相談してほしい。
- 現在、スマート農業についての勉強会を行っており、基本的には実証という形で一緒に取り組みたい。来年度に向けて実証ができればと考えている。
- ・ 技術力が優れた農業の町にしたいと考えている。
 - ・ ピーマン農家の課題は何なのか。適期に防除するなどの一番の課題に一番必要な技術を導入するためにスマート農業の技術導入を考えている。
 - ・ 雇用の問題、規模拡大、病虫害防除の課題を解決する手段として、農家のデータをとって課題解決や技術の継承につなげることができれば良いと思う。
- 持続可能なピーマン経営に向けて、どういう方法があるのか、それぞれの経営の課題について、自助努力できる問題、行政が解決できる問題、各団体もあるので、役割分担をして市もできることはしないといけない。
- 今回の意見・要望については、まずは市担当部署で情報等を集めて検討したい。